授業科目名・形態	成人看護方法論Ⅲ（周手術期ケア）　演習	必修・選択の別	必修	単位数	1
科目担当者氏名	水木　暢子・村川　徳昭・飛澤　貴子	実務経験の有無	有	開講期	２年後期
科目ナンバリング	N5-2013npmht				

【授業の主題】

様々な健康障害をもち手術療法を受ける成人期の対象を理解し、患者・家族の QOL を高める方法を学ぶ。手術前後における心身の侵襲を予測し、患者自身が回復の意欲や目標を持ち新たなセルフケア能力を獲得するために必要な看護の知識・技術を習得する。また、成人期に遭遇する代表的な手術を受ける患者の看護を取り上げ、術前から術後に至る一連の流れに沿った看護実践について講義や演習を通して学習する。

【到達目標】

1） 様々な健康障害を持ち手術療法を受ける対象の看護アセスメントと看護方法を適切に考察できる。
2） 周手術期にある対象と家族を身体的・心理･社会的にとらえ、適切な看護援助を提供するための基本を習得する。
3） 術後合併症の予防と看護について考察できる。
4）代表的な手術を受ける患者の特徴や術前・術中・術後に必要な看護援助の基本を習得する。

【授業計画・内容】

第 1 回	周術期看護の基礎知識 手術過程に応じた看護①　術前の看護	(水木)
第 2 回	手術過程に応じた看護②　術中の看護	(村川)
第 3 回	手術過程に応じた看護③　術後の看護	(水木)
第 4 回	手術合併症予防のための看護技術（グループワーク）	(水木・飛澤)
第 5 回	手術合併症予防のための看護技術（グループ発表）	(水木・飛澤)
第 6 回	内視鏡下手術と日帰り手術を受ける人の看護	(水木)
第 7 回	呼吸器系に障害のある人の看護：肺切除術を受ける患者の場合	(水木)
第 8 回	臓器移植を必要とする人の看護：腎移植手術、肝移植手術を受ける患者の場合	(水木)
第 9 回	消化代謝系に障害のある人の看護：胃切除術を受ける患者の場合	(飛澤)
第 10 回	排泄機能障害のある人の看護：ストーマ造設術を受ける患者の場合	(飛澤)
第 11 回	排泄障害時の看護技術（周術期におけるストーマケアの演習）	(飛澤)
第 12 回	周手術期にある人の看護アセスメント①	(水木・飛澤)
第 13 回	性・生殖機能障害をもつ人の看護①：乳房切除術を受ける患者の場合	(飛澤)
第 14 回	性・生殖機能障害をもつ人の看護②：子宮摘出術、前立腺切除術を受ける患者の場合	(飛澤)
第 15 回	周手術期にある人の看護アセスメント②	(水木・飛澤)

【授業実施方法】

講義（第１回～３回、６回～10 回、13・14 回）、技術演習（第４・５・11 回）、看護過程に関る演習（第 12・15 回）。講義は総論→各論と進め、その間に技術演習やグループワークを取り入れて授業を進めます。

【事前・事後学習】

専門基礎科目、成人看護学概論等、既習の関連科目の復習が必要です。特に病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ内容を、講義内容に応じてトータル２～３時間程度自己学習して授業に臨んでください。また技術演習や看護過程に関る演習のための事前学習や課題学習を２～３時間程度行ってください。授業の復習や試験対策をトータル 10 時間以上行ってください。

【主な関連する科目】

病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ、成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

ナーシング・グラフィカ成人看護学④　周術期看護　第４版　メディカ出版

【参考文献】

成人看護学 周手術期看護論 第３版 ヌーヴェルヒロカワ
NICE 成人看護学 成人看護技術 改訂第３版 南江堂

【成績評価方法】
筆記試験 80%、提出課題・授業への参加態度 20%により評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】
総合病院での周手術期看護および医療の経験をもとに、実践的な周手術期看護の知識、技能を教授します。

【学生へのメッセージ】
３年次の成人・老年看護学実習を想定しながら、授業を進めていきます。周手術期の対象に対する看護方法を主体的に、かつ楽しく学習していきましょう。